



大樺沢を登るスタッフ

北岳に登山し山小屋や高山植物などの状況を放送してもらう目的であった。スタッフはKBSのディレクター兼カメラマン一名、登山者役の俳優二名、山岳雑誌の取材一名の四名でした。私は芦安ファンクラブの要請でスタッフのガイドとして二十八日から二日までの五日間を北岳でスタッフと過ごした。

韓国国営放送スタッフとの

北岳山行

芦安ファンクラブ通信

第31号
夏号

特定非営利活動法人芦安ファンクラブ
事務局 南アルプス市芦安声倉一五八九・八・大滝要造
T 〇五五二二八八二五三三 F 〇五五二二八八二五三三

URL=http://www.cstv.wakwak.com/~kitadake/
E-mail=rantaru@blue.ocn.ne.jp



北岳稜線上のイム・ホ&チャン

二十八日、広河原での南アルプス開山祭の取材に始まり、その後大樺沢沿いに登り二俣を経て白根御池小屋まで、俳優と私の登山の様子などを取材しながら、通常の2倍ほど時間が掛かってしまい、遅くなって小屋に着いた。小屋では他の登山者の夕食が終わっていたが快く私達を迎えてくれた。二十九日、取材には生憎の悪天候で北岳草の観察会も中止して下山するといふので、私は肩の小屋まで登って天候の回復を待ったらと思ったが、スタッフはすぐに下山し山麓の取材をしたいと希望したため雨の中を広河原に



海外メディアにも胸を張ってそびえているような間ノ岳

は早朝に芦安に行った。しかし林道が大雨のため通行止めになっていて解除されたのが十一時過ぎになり、結局この日は白根御池小屋まで登り泊まった。一日、八本歯のコルを目指し雪渓を登ったが、残雪が多く、しかも落石が非常に沢山その上に載っていて危険であった。現に我々のそばをこぶし大の石が数回すべり落ちていった。八本歯のコルからの間ノ岳や農鳥岳、トラバース道の途中に咲いている高山植物、特にキタダケソウが満開で、時間を掛けて取材し、北岳山荘に行った。そこで昼食を取ったがその際、お茶や味噌汁などご馳走になった。山荘の中の様子や山荘スタッフの取材ができ皆様の協力に感謝感謝であった。

間ノ岳まで行き取材したかったが時間が足りず中白根岳で引き返した。北岳の山頂に着いたのは十七時を過ぎていた。肩の小屋でジュースなどサービスしてもらい、白根御池小屋には十九時四十五分に帰った。十五時間余りの行動にも韓国のスタッフは実に力強かった。二日、中部国際空港から午後三時に帰国するスタッフを送る車を広河原へ八時に約束し山を下った。無事に車に乗れ、芦安で韓国のスタッフとお別れした。五日間の取材登山のガイドを無事に終わらせる事が出来たのは、インタビュアーに快く答えてくれた登山者や山小屋関係者、そして県国際交流課の方々など大勢の協力があったからと感謝している次第です。なお放送は八月十七日で四十分間の予定だそうです。

七月二十九日

芦安ファンクラブ井口 功記



追:少し照れくさそうな当会の名ガイド

南アルプス開山祭

キタダケソウ観察会開催

南アルプスの開山祭が六月二十八日登山口の拠点広河原で行われました。開山祭には関係者約200人が出席し、冒頭、南アルプス市の今沢市長から「多くの登山者や関係者の配慮があつてこそ南アルプスの自然が守れる」との開山のあいさつでした。安全登山を祈る儀式「蔓はらい」では、地元の区長さんと芦安ファンクラブ会員依田さんと堀内さんが「ミノに背負子」といった百年前の案内人に扮して、組み上げた蔓をおので切り開いた儀式のあと、参加者は蔓で出来た門をくぐり山の安全を祈りました。また、同じく南アルプス登山の魅力などを韓国へ紹介する番組の撮影のため、俳優のイム・ホさんや韓国KBSテレビの製作スタッフら5人が開山祭を取材。芦安ファンクラブの井口さんの案内で北岳に登りました。



白根御池小屋での楽しい餅つき風景

山開きに併せキタダケソウ観察会が行われ県内外から17名の参加者がありました。新築したばかりの御池小屋には午後3時過ぎに到着し、小屋の前広場で餅つき大会を行い、開山祭を祝いました。夜はキタダケソウの研究家名取先生による講演会が開かれ、キタダケソウに関わる珍しいお話に、参加者は熱心に聞き入っていました。しかし外は雨が降り始め講演会が終わる頃には本降りとなり、翌日の観察会を心配しながらの消灯でした。翌朝は雨の音で目が覚めました。朝食後雨は強さを増して、予定していたキタダケソウ観察会は中止となり、出来るだけ早くの下山としました。結果的に、午後には雨量が警戒水位を超え南アルプス林道が通行止めになってしまいました。朝のスタッフの判断は皆さんの安全を守ったと思えました。こういった状況判断が大切であることは今回参加させていたただいて一番感じたことでした。雨の日の登山も初めて経験し、広河原山荘に到着していただいたコーヒーマスターは生涯忘れられない思い出でした。そして、そのまま芦安ファンクラブに入会しました。

今年から環境保護のためマイカー規制の経費としてバスやタクシーの利用者に一人片道一〇〇円を負担していた「環境協力金」の自主的な徴収が始まりました。変化していく南アルプスの環境保全に鋭意努力している芦安ファンクラブに加わり、南アルプスの自然を大切に、すばらしい自然を多くの人に知ってもらうため活動していきます。

芦安ファンクラブ新会員 奥石(和) 記

後立山連峰

五竜岳から針の木岳へ

北アルプスの北部、白馬三山から針の木岳に連なる稜線の山々を後立山連峰と呼ぶ。今回はこの稜線の一部、五竜岳から針の木岳までを歩く会員山行番編。今回の同行者は三人。Iさんは昨年大キレットを案内してくれた大ベテラン、会の歴史研究部のWさん。そして頼れるお姉さんのS女士。私にとっては北アルプス第二弾の山旅である。

一日目

扇沢に車を一台置き、もう一台を五竜とおみ「テレキャビン」の駐車場に置き、遠見尾根から登る。地蔵の頭までは遊歩道になっていて周辺は高山植物園である花々を眺めながらゆつくり歩く。

遠見尾根はその名前の由来から周りの展望が良いらしいが、生憎のガスで視界はない。いくつかのアップダウンを繰り返し、急な上り下りの箇所には木段が設置されている。歩幅が合わないのが案外疲れる。西遠見山に着いた頃から霧が晴れ視界が良くなる。目の前に大きな五竜岳が現れる。お天気が良くなったならなつたで、日差しを遮る木立もなくなり暑くて堪らない。あまりの暑さに弱音を吐く。「あと少し。あと少し。」と言いつつ歩いたすらすら歩く。白岳を越え、宿泊地の五竜山荘が見えた時はホッとした。

二日目

山荘から見る五竜岳は近すぎてその全容がわからない。谷に向かって幾筋もの尾根がひだの様に流れる美しさは、ここからは見ることができない。それでも初めて登る山はいつもワクワクする。山頂から見える景色はどんなだろうと胸が高鳴る。頂に辿り着いて目に飛び込んでくる風景に声を揚げ感激する喜びは何時も

変わらない。十時間以上に及ぶ長い二日目は種池山荘でようやく終わる。三日目

今日も長丁場である。朝食をお弁当にしてみよう、最終目的地である針の木岳を目指して出発する。

黒部湖から吹きあがってくる冷たく心地よい風に当たりながらの稜線漫步は、ふと時代錯誤に陥る。

気づけば幾多の峰々を越え、残すは針の木岳だけとなる。もうひと登り!

昨年の夏、初めて北アルプスの稜線歩いた。山と高原地図の日本アルプス総図十五万分之一を購入し、槍ヶ岳から前穂高岳まで自分の歩いた道のりを赤ペンでなぞった。地図で見ればほんのちよつとである。でもそこには地図には見えないうたかさんの思い出が詰まっている。今年も楽しかった思い出と一緒に赤ペンをなぞり書き込む。

さて、次はどこに赤ペンが加わるのだろうか?

芦安ファンクラブ 花輪(初) 記



スバリ岳から

第19回南アルプス・芦安 登山教室 参加者募集!

南アルプス市と「芦安ファンクラブ」(代表 花岡利幸)では、南アルプスに抱かれる南アルプス市芦安で登山教室を開催します。すばらしい山の魅力にますます盛んな登山ブーム! けれど山岳地域に対するルールとマナーを知らない人や、守らない人が多くなり、このままでは大切な自然が破壊されて行く恐れがあります。その上、初心者のあいまいな行動や、少ない登山知識の為に発生する事故や遭難も増える傾向にあります。同クラブは、南アルプスに入山する人々が安全で楽しい登山をする為に必要な、様々な研修や登山を重ねて参りました。今回は高山初級者と中級者を対象に南アルプスの秀峰「北岳」を登山しながら、実践的な登山教室を実施します。

みんなで楽しみながら学んで、登って、山の素晴らしさを実感しましょう。

◇ 日 時 / 2008年 9月27日(土)(8:00) ~ 9月28日(日)(17:30)

◇ 集 合 / 市営南アルプス芦安山岳館 8:00 TEL055-288-2125 宿泊場所 白根御池小屋

◇ 研修山名 / ☆ 北岳 (3193.2m)

南アルプス北部の中心にある我国第2の高峰。様々な容姿を持ち、特に高山植物の宝庫として有名である。

◇ 参加条件 / 健康で高山の登山が可能な方。体力不足及び体調不良等で登山続行不可能と判断した場合はコース中途でもスタッフ同行で下山していただきます。

◇ 装 備 / 通常装備に防寒を考慮し、朝、昼食等が変則的になる為、行動食は少し多めに準備してください。

◇ 参加費 / ¥19,000 / 1人 (宿泊費、食費、研修費、移動交通費、保険料を含む)

予約金は不要ですが最終〆切以後の欠席はキャンセル料¥5000をいただきます。

◇ 定 員 / 30名 (先着順) とさせていただきます。

◇ 最終〆切 / 平成 20年 9月25日

☆申し込み方法

電話又は官製はがきで下記の事を明示して

お申し込み下さい。

- ① 住所、氏名、年齢、電話番号。
- ② 登山経験のある方は「登った山の事など」
- ③ 健康状態や気になる事
- ④ 原則として70歳以下の方を対象とします。

☆申し込み・問い合わせ

芦安ファンクラブ「登山教室事務局」

おおたき ようぞう

ペンション「らんたん」 大滝要造 まで
〒400-0241 山梨県南アルプス市芦安芦倉 1589-8

TEL 055 (288) 2531

FAX 055 (288) 2533

南アルプス芦安山岳館 登山教室係

〒400-0241 山梨県南アルプス市芦安芦倉 1570

TEL 055 (288) 2125

FAX 055 (288) 2162

* 甲府駅からの送迎希望者は申出ていただければ対応します。

* 前日宿泊される方は事前に申し込んで下さい。

主催: 芦安ファンクラブ 共催: 南アルプス芦安山岳館 後援: 山梨県山岳連盟、日本高山植物保護協会(JAFPA)

☆スケジュール

1日目 9/27 (土)

- * 受付 AM8:00~8:15 芦安山岳館 参加者確認、諸注意 弁当配布等
- * マイクロバス移動 南アルプス芦安山岳館(8:30)→広河原(9:30)
- * 登山上の注意、日程説明、準備体操、スタッフ紹介、(9:30~9:45)
- * 登山 北岳(3193.2m) 広河原出発(9:45)→二俣(13:15)→白根御池小屋着(14:00)
- * 座学研修 14:30~16:00 北岳のあれこれ 講師 三宅 八郎氏

2日目 9/28 (日)

- * 白根御池出発(4:30)→北岳肩ノ小屋(8:30)→北岳山頂(9:30~10:00)
- ※朝食は弁当を用意しますので各自適所で済ませてください。
→北岳肩ノ小屋(10:30)→白根御池小屋、昼食(12:40→13:00)
→尾根道→広河原到着(15:30)
- * マイクロバス移動 広河原→南アルプス芦安山岳館(17:00)着
- * 閉会セレモニー (南アルプス芦安山岳館) 17:00~17:30
修了式(研修修了証書授与等)
- * 閉会式終了後解散
- * 甲府駅までの送迎希望者は申出て頂ければ対応します。
- * 終了後の市営温泉「白峰会館展望風呂」での入浴は無料です。

北岳から眺める富士



「北岳登山」〜自己や仲間、自然を感じるための価値ある体験の場として〜

「芦安中の子どもたちは3年間で北岳・仙丈岳・鳳凰三山に登って卒業していくが、山を嫌いになってしまい、大人になってから登る人がいないよ。」昨年度の芦安中登山に関わる支援委員会の席で地域住民から発せられた言葉が、当時外部からの支援員として出席していた私の頭に強く残っています。今年4月に赴任した本校で担当した北岳登山。まず今年はここから改善してこうと考えました。

今年の「北岳登山」は、登ることそのものが体験させたい一つの目標であり、また一方では自己や仲間、自然を「感じる」ための一つの道具であると考え企画しました。まずは、「芦安中に在籍するから山に登らされる」ではなく、「北岳にどのように登ろうか？」という視点で山に向き合えるよう子どもたちに投げかけようと考えました。そのため、まずは山に対するモチベーションを高めようと、5月20日に山岳講演会を実施し、気象予報士の村山貢司さんによる山の気象に関するわかりやすいお話を、登山家の戸高雅史さんによる感性あふれる映像と音声での表現に感銘を受けました。その後、塩沢久仙山岳館長、清水准一さん、さらに学校長や生徒代表をパネラーに加え「山に登ろう！」をテーマにディスカッションを繰り広げ、会場の生徒からも質問が続出し、登山への「参加」の第一歩を踏み出しました。



縦隊登山から、生徒たちのグループにより計画したルートや登り方に転換したことにより、山で判断のできる専門家による支援が一層重要となりました。幸い、芦安ファンクラブ、市職員で構成する北岳ゆめ倶楽部、地元芦安駐在所より計9名の支援者にバックアップしていただくことができました。

生徒たちが自ら道を探り、グループの全員が無理なく登れるペースで歩いていく後ろから、支援者と教職員が続きます。生徒たちに危険が予想されるような場合にグループへの介入が行われますが、常に生徒たちの心の安心を保障してくれる存在となってくれました。



グループのペースや判断で登山

生徒たち自身の計画により、「大権沢・右俣コース」を1グループ、「白根御池・草すべりコース」を2グループが選択し、3つの登山隊を組織しました。体力的に心配な生徒を2番手に据え、先頭がその息遣いを感じながらペースをつくり、また最後尾のリーダーが全体を掌握しながら休憩等に配慮するなど、チームで助け合い、励まし合いながら登る姿が見られました。当日まで、「自分は高所恐怖症で山は大嫌いだから絶対に登らない！」と公言していた生徒も、この集団の中で3000mまであきらめずに登ることができました。日常的に見られない仲間のやさしさや頼もしさなど、身近にいる仲間を見つめなおす良い機会となり、また一方では達成感を味わう中で自分自身の力をも見つめる貴重な場となったように思います。もちろん、山の雄大さ



や見事な高山植物など南アルプスの自然に対する大きな感動も味わって帰ることができました。

「感謝と自信をもらった北岳登山」3年生三井まみさんの作文より抜粋

みんな疲れているのに、私のペースに合わせて文句一つ言わずついてきてくれて本当に感謝の一言です。今回の登山が楽しかったと思えるのは、このチームだったからというのもしごく大きな理由だと思えます。不安はたくさんでしたが、そういったもの全て「できた」や「良かった」に変えられ、またそれが今後のための大きな自信になりました。一つ心残りなのは、仙丈岳に登れなかったことです。仙丈岳には、いつかまた機会があれば、この北岳でついた自信を胸に登ってみたいなと思いました。

芦安中学校 齊藤 光裕 記

芦安中学校北岳登山を

支援して

芦安中学校は地域の学校だと改めて思う。学校と地域が連携して、地域の中で子どもたちを育み、この地域の自然や歴史、暮らしを、あたりまえのように連綿とつなげていることに芦安中学校の力強さがあると感じる。子どもたちが、登山を財産として、先輩から後輩へ引き継ぐ意思を持ち、先生方の努力と保護者の支援、地域の人たちの協力がなければこう長く続くことはいかないだろう。



地域の支援者の数も充実している。生徒十七名に、先生が八名、保護者が二名、支援者が九名と、生徒と同数の大人と一緒に登るのだから。私は、初めてこの登山に参加した。

支援者には事前に次のような確認がされている。①子どもたち自身の登山に向けての主体性を重視し、集団の力を伸ばすことを目的とした登山のあり方に沿って、ルートファイディングやペース配分、休憩はグループの判断に任せてほしい。②支援者はグループの後方で観察してください。③グループの力で解決できないような状況が生じた場合は介入してください。

このような自主性を重視した登山が何をもたらすのか。後日、子どもたちの作文が、礼状と笑顔の写真とともに送られてきて、なるほどと改めて思った。子どもたちは、北岳登山のために不安と戦いながら、トレーニングや事前学習を懸命に積んできていた。私は、子どもたちとは初対面だったし、後方支援するという立場では、なかなか子どもたちの心の様子を知ることなどかなわなかったが、子どもたちと一緒に見た風景と、文中の子どもたちの気持ちが重なって、感動が伝わってきた。子どもたちが登らされていると思っていないことや、登山を通して子どもたちが成長していることに心を打たれる。来年もまた参加したいと思う。

芦安ファンクラブ 杉山 記



心に残った夏のスナップ

フルーツ山麓フェスティバルより
重さ体験コーナーでの
ほほえましいひとコマ



フルーツ山麓フェスティバルより
雪山体験コーナーのはずだったかな～



フルーツ山麓フェスティバルより
立体大型地図コーナーでは国土地理院の
皆さんにはたいへんご厄介になりました。
ありがとうございました。

7月29日北岳トラバース道で会ったライ
チョウ親子。母親は調査済みの足冠
を着けていた。



北岳の岩の窪みに咲き出したタカネ
マンテマ。



今も根付いている地藏信仰。
新しい地藏が賑わいを見せて
いた

スイスアルプス、

氷河と花の絶景ハイキング

六月二十日から十日間、ヨーロッパアルプスの三大名峰といわれる、ユングフラウマッターホルン、モンブランの山麓を、アルプスの輝く氷河と美しい花を求めてハイキングしました。今までの海外旅行は、カナダにいる娘の通訳付の個人旅行でしたが、今回は夫婦二人の旅行で、初めて大手旅行会社のハイキングツアーに参加しました。芦安ファンクラブでも八年前の五月下旬から二週間、スイス視察旅行を実施し、このときは、ツェルマットのブライトホルン(四一六四m)に登頂しています。

スイスのチューリッヒ空港からバスで、最初の訪問地グリンデルワルトへ。ハイキング初日、ゴンドラでメンリッヒェンに登り、そこからアイガー(三九七〇m)、メンヒ(四〇九九m)、ユングフラウ(四一五八m)の三山に向かって歩き始める。雲が多く、三山は見え隠れでしたが、エンチアン、アルペンローゼなど、花々の競演が素晴らしいコースです。クライネシャディックの山岳ホテルに一泊、次の日はユングフラウとアイガーの山麓ハイキング。名山の圧倒的迫力と夏のお花畑がベストマッチ。あのアイガー北壁が大きく迫るコースです。三日目はファイルストからアルプスの宝石と呼ばれるバツハアルプ湖へ。アイガーを始め四〇〇〇m級の山並みと黄色いリュウキンカの群落、霧の中で幻想的に広がり感動的でしたが、有名なバツハアルプ湖からの景色は、残念ながら霧の中。突如雷鳴がとどろき、湖畔の石造りの山小屋に緊急避難、真っ暗な中、各国のハイカーのふれあいの場となりました。



アルペンローゼとユングフラウ

四日目は、氷河特急に乗り、ツェルマットへ移動。マッターホルン(四四七八m)に見える部屋をゲットして、しばし見とれる。次の日、マッターホルンの朝焼けが見られたのは幸運でした。この日、クラインマッターホルン展望台(三三八三m)までゴンドラで向かう。わが仲間たちが登頂したあのブライトホルンはすぐ目の前、点のように小さいが山頂に立つ登山者もはつきり見える。振り返れば形を変えたマッターホルンが近い、遠く遙かモンブランも見える。シユヴァルツゼーまでもどつて、ハイキング。マッターホルンが大きく頭上に聳え、登山基地のヘルンリ小屋もはつきり見える。ここから、多くの日本人が挑戦し歴史を刻んできた、あの北壁を間近に仰ぎながらの花ハイクを楽しみました。

六日目は、あこがれのエーデルワイスを見に、シユテリー湖へのハイキング。マッターホルンは雲の中でしたが、その花には出会うことができず。とても可憐でかわいらしい花でした。途中から雷雨になり、湖に映る逆さまマッターホルンへの期待は、霧の中に消えました。下山後、バスでフランスのシャモニへ向かいました。シャモニは、アルプスの最高峰モンブラン(四八一〇m)への拠点となる町です。



圧倒的な迫力のマッターホルン

十日間のスイスハイキングは、ほとんどが初心者向けのコースで、ゴンドラで上ってくるといった設定です。その分、雄大な展望や氷河、夏の花をゆつくり眺め、しかも日本人の地元ガイド付きで、スイスの山や花の話を聞きながら、楽しく歩きました。このハイキングツアーで、全国から集まった二十四名の方と一緒に歩きましたが、同じ中高年、同じ山好きの人たちで、すぐ仲良くなって、日本とスイスのアルプス山談議に花が咲きました。各地で日本人のツアー客の多さには圧倒されましたが、交通機関のフリーパス付でツアーを離れて自由行動もでき、二人で静かな山歩きを楽しむこともできました。マッターホルンを始めとする、名だたる名峰を間近に仰ぎ、氷河とお花畑を巡る、今回のスイスハイキング。それは、日本の名峰北岳を歩くのとは、また違った感動があり、夢のような充実した時間を過ごすことができました。

芦安ファンクラブ 大滝 (要) 記



可憐なエーデルワイス